



大幸薬品

News Release

2023年1月11日

二酸化塩素による H7N9 型鳥インフルエンザウイルス不活化を確認 ～『Biosafety and Health (2022)』で論文発表～

大幸薬品株式会社(本社:大阪市西区、代表取締役社長:柴田高、以下、大幸薬品)は、中華人民共和国内「上海復旦大学三級生物安全防护実験室」にて、H7N9 型鳥インフルエンザウイルスに対する二酸化塩素の効果に関する実験を実施致しました。その結果、二酸化塩素ガス溶存液及び二酸化塩素ガスによって、H7N9 型鳥インフルエンザウイルスは、99.999%以上不活化することを確認致しました。

2022年12月、以上の内容が記載された以下の論文を発表したことをご報告致します。

■論文掲載誌 Biosafety and Health (2022)

■掲載論文

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2590053621001221>

なお、本件の実験期間は、2015年4月から11月までです。

本件実験は、H7N9 型鳥インフルエンザウイルス混濁液に対し、二酸化塩素ガス溶存液及び二酸化塩素ガスを暴露させることによって、物体表面に付着する H7N9 型鳥インフルエンザウイルスが受ける効果を明らかにしたものです。

【研究の背景】

大幸薬品では「二酸化塩素」に関する開発研究を行うため、2004年8月から二酸化塩素事業開発室を立ち上げ、病院の解剖室内での浮遊菌測定をはじめ、さまざまなウイルス・菌に対する検証を重ねて参りました。

「H7N9 型鳥インフルエンザウイルス」は鳥・ヒトインフルエンザウイルスの両方に感染し、交雑宿主となって新たなウイルスを排出する可能性がある「ブタ」に感染し、「ブタ」から「ヒト」に感染することでパンデミックが発生する可能性も考えられることから、今回発表された論文内容は、将来的に、「新型インフルエンザウイルス」の発生を低減することに繋がるものと考えています。

大幸薬品では、本研究結果の活用も踏まえ、さらなる研究により家庭薬と感染管理による衛生対策で、お客様の健康への寄与を通じて、社会に貢献して参ります。

【参考情報】

鳥インフルエンザ A ウイルス(H5N1、H5N6、H6N1、H7N4、H7N9、H9N2、および H10N8)による感染が「ヒト」においても確認されており、そのうち、H7N9 型と H5N1 型は「ヒト」に対して高病原性を有し、季節性インフルエンザウイルスとは異なる株です。飛沫、エアロゾル、および直接的または間接的な接触によって伝播する人獣共通病原体として、無症候性または軽度から重度の疾患・死亡まで、幅広い症状を伴う呼吸器疾患を引き起こします。

感染経路は気道経由、ウイルスとの直接接触、または感染した家禽の分泌物や排泄物との密接な接触によるものと推測されています。H7N9 鳥インフルエンザウイルス疾患を制御するには、養鶏場の市場、患者が使用する物品、それらの周辺環境の衛生管理が重要と考えられています。

〈報道関係の方からのお問い合わせ先〉大幸薬品株式会社 広報担当

E-Mail: press@seirogan.co.jp

大幸薬品株式会社

〒550-0005 大阪市西区西本町1-4-1 オリックス本町ビル16階
<http://www.seirogan.co.jp>